

2 全宝寺

全宝寺は、当初は天台宗に属し、天平6(734)年創建とも伝えられています。享禄2(1529)年に三河の全久院の僧を招いて開山となし、阿弥陀如来を本尊としましたが、永禄3(1560)年に兵火によって堂宇を焼失したと伝えられています。文禄年中(1592~1596)に雲興寺14世居雲宗準が堂宇を再興し中興開山となり曹洞宗の寺となりました。寛政4(1792)年等の村絵図には、「地藏」と書き込まれており、現在も境内に地藏堂・庚申堂があります。また、文明14(1482)年の品野の永井民部と今村の松原広長の合戦の折には、品野方の砦としてこの地に阿弥陀峯城が築かれたとされています。



Check 品野祇園祭の神武天皇像及び従者像

下品野では、毎年7月第3土曜日の夜半に1台の山車を中心として神輿や踊りの隊列が中心部を巡行する「品野祇園祭」が開催されます。祭り当日に全宝寺祇園堂に安置されている神武天皇像1体とその従者2体を山車 upper 層に献納(移動)し、踊りと山車曳を行います。この祭礼は、江戸末期から明治初期の頃始まったと考えられます。山車 upper 層の中央に据えられる神武天皇像は、左右の従者像とともに、両腕を上下に動かすことのできる素朴なからくり人形となっていますが、現在はからくり操作は行われていません。神武天皇像については、昭和5(1930)年頃の山車にはみられないことから、昭和10(1935)年前後から山車 upper 層に据えられるようになったものと考えられます。

神武天皇像及び従者像
(市指定文化財)



品野祇園祭



3 津島社

下品野中島(現在の品野町4丁目)に小規模な朱塗りの社が3棟みられます。その中央の社が津島社です。津島社は、天王社または天王さんとも言いますが、下品野をはじめ瀬戸市域北東部では祇園社または祇園さんとも呼んでいます。周辺の村と同様、津島市の津島牛頭天王(津島神社)の分霊を祀っています。品野祇園祭の際には、前日までに津島市の津島神社に代参して受けてきた御札がおさめられ、祭りの際に津島社の前で参加者が祈禱を受けます。なお、津島社南に建てられている秋葉山常夜燈は、寛政7(1795)年の銘があり、市内で確認される現存最古の常夜燈です。



品野ってどんなところ?

品野は瀬戸市の北東部にあたり、江戸時代以降、「信州飯田街道(中馬街道)」と呼ばれた名古屋と信州を往来する脇街道が通り、人・物の交流のもと、にぎわいのある町場が形成されました。そもそも、瀬戸では古来より人々が生活を営んできたことが知られていますが、特に品野では愛知県内最古となる3万年前の遺跡(上品野遺跡)が見つかっています。さらに、品野西遺跡などでは古代寺院の存在を示す瓦や大型建物群も見つかるなど、中心的な役割を担ったであろう集落が存在していました。また、尾張・三河・美濃三国の境に位置するその立地条件から、戦国時代には戦乱の舞台にもなりました。文明14(1482)年には全宝寺周辺の大横山で、品野の長江氏と今村の松原氏による激しい合戦が繰り広げられ、現在も戦に勝利した長江氏の居城(桑下城・品野城)が信州飯田街道を挟んだ南北の丘陵上に残されています。江戸時代には、尾張藩が美濃からこの地に陶工を召還して保護を加えて以降、現在に至るまで窯業が盛んに行われています。

1 品野陶磁器センター・道の駅瀬戸しなの

品野陶磁器センターは、市内で最も多くの窯元が集まる品野地域のやきもの発信拠点です。品野の窯元の商品を中心に陶磁器を展示・即売しています。センター内には陶芸教室も併設していますので買い物以外でも楽しんでいただけます。全国から多くのやきものファンが訪れる観光スポットです。

営業時間
午前9時~午後6時
(12月~2月は午後5時まで)
定休日
年末年始



道の駅 瀬戸しなのは、観光客や市民に瀬戸の農産物や地元産の素材を使った加工品や、やきものまじり、瀬戸ならではの職人文化の中から生まれた料理などを提供する「せともの旨いもん市場」などがある公の施設です。

営業時間
午前9時~午後6時
(食堂:平日 午前8時30分~午後3時30分
:土日 午前8時30分~午後4時30分
(いずれもラストオーダー))

定休日
年末年始
※トイレ・情報提供施設・駐車場は年中無休

